

先進的な無線システムに関するワーキンググループ 報告書目次案

1. はじめに
2. 先進的な無線システム等の新たな電波利用動向
 - 2.1 新たな電波利用動向の概要
 - 2.2 WPT
 - 2.3 5G
 - 2.4 WiGig
 - 2.5 車載レーダ
3. 海外における電波防護に関する検討状況
 - 3.1 WHO
 - 3.2 ICNIRP
 - 3.3 IEEE
 - 3.4 IEC
 - 3.5 各国の検討状況 (FCC 及びその他)
4. 新たな電波利用に向けた電波防護に関する研究状況
 - 4.1 国内外における主な研究の現状
 - 4.1.1 現状分析における留意点
 - 4.1.2 中間周波の影響
 - 4.1.2.1 細胞実験
 - 4.1.2.2 動物実験
 - 4.1.2.3 ヒト実験研究
 - 4.1.2.4 疫学研究
 - 4.1.3 高周波の影響
 - 4.1.3.1 細胞実験
 - 4.1.3.2 動物実験
 - 4.1.3.3 ヒト実験研究
 - 4.1.3.4 疫学研究
 - 4.1.4 超高周波の影響
 - 4.1.4.1 細胞実験
 - 4.1.4.2 動物実験
 - 4.1.4.3 ヒト実験研究
 - 4.1.4.4 疫学研究
 - 4.2 6GHz 以上の人体ばく露評価
 - 4.2.1 局所 SAR と入射電力密度とのギャップ
 - 4.2.2 光領域と電波領域のギャップ

- 4.2.3 平均時間
- 4.2.4 平均化面積
- 4.3 防護対象
 - 4.3.1 植込み型の医療機器や金属
 - 4.3.2 新たな電波利用形態への対応
 - (1) WPT
 - (2) 5G
 - (3) WiGig
 - (4) レーダ
 - (5) その他（ウェアラブル端末、等）
- 4.4 今後の研究課題
- 5. 新たな電波利用に向けた電波防護指針改訂方針
 - 5.1 新たな電波利用に向けた電波防護指針の在り方
 - 5.1.1 刺激作用を考慮した電波防護指針（10MHz 以下）
 - 5.1.2 熱作用を考慮した電波防護指針（100KHz 以上）
 - 5.1.3 局所吸収指針対象周波数の拡張
 - 5.1.4 眼への入射規制（補助指針）
 - 5.2 電波防護指針（管理指針）の改定案
 - 5.2.1 改定の考え方
 - 5.2.2 電磁界強度指針値
 - 5.2.3 補助指針
 - 5.2.3 局所吸収指針
 - 5.2.4 その他
- 6. 新たな電波利用に向けた適合性評価方法
 - 6.1 中間周波における適合性評価方法
 - 6.2 高周波における適合性評価方法
 - 6.3 数値シミュレーション